

## 力障連「わ」祭

http://challenged-catholic.net/ No.89 2020. 4 .7 発行

### もくじ目次

**%** 

そくほう よてい かめいだんたいいけんこうかんかい しょうがいしゃさべつかいしょうほう けんしゅう ざんねん ※速報 4/18予定の加盟団体意見交換会と障害者差別解消法の研修セミナーを残念ながら しんがた ちゅうし いただ 新型コロナウイルスを考慮して中止させて頂きます。

### かん とう げん 巻 頭 萱

### 「あなたに、話がある」 教皇様、来日に感謝

しょうれんかいちょう えど とおる 力障連会長 江戸 徹

2019年11月25日、教皇様東京ドームミサには、約5万人の参加者があり障害の有無なく感動のうちに、私たち日本カトリック障害者連絡協議会の皆さんと共に祝福に授かれたことを感謝いたします。

1981年の教皇ヨハネ・パウロII世が来日されたのを機に、障害のある信者や有志が集まり ときかい ふくいんか かつどう 社会の福音化の活動をするため、翌年 '82年7月「ミサへの完全参加と平等の実現」を謳い、 にほん 日本カトリック障害者連絡協議会(以下、カ障連)が発足しました。

この間、カ障連では3年毎に総会と全国大会(次回は2021年に長崎教区で開催)を開催し、 しょうがい 障害のあるカトリック信者を中心に仲間たちが集い日頃の困難や教会に於ける障害者を取り巻く かんきょう もんだい なかま 環境の問題などを分かち合いながら、一人ひとりでは伝わらない「小さきものの声」を聞き取り 発信してきました。

こんかい、きょうこうきまとうきょう 今回の教皇様東京ドームミサ開催には、これまでの全国大会で試行錯誤しながら培ったバリア しょうぼうほしょう も こ しょうがいしゃ はいりょ しきょうぎょうぎがい ようせい フリーや情報保障などを盛り込んだ障害者への配慮を司教協議会に要請しました。 ドームミサが発表された際に司教団より広告代理店を通じて会場の下見を打診され、東京教区の加盟団体の皆さんと共に点検をし、様々な障害者の立場からご意見を頂きながら準備を進めました。ドーム内の車いすの動線の確保、聴覚障害者の情報保障(手話通訳・要約筆記等のスクリーン)、視覚障害者の点字資料・音声ガイド(今回初めての試み)、簡易車いすトイレの設置、医務室、静養室などたくさんの配慮がなされました。

2か月ほどの短期間でこれだけの準備が出来ましたのは、「誰一人排除しない」「ミサへの がたぜんきんかとでようどう」を目指したボランティアの存在が不可欠でした。中でもロゴス点字図書館、 CIC、要約筆記グループ「イサク」、手話通訳グループの皆さんは、下見の段階から障害者にとって必要な情報保障の配慮を考えていただきました。その結果今まではミサに参加すると見えなかったり、聞こえなかったりすることで一致を実感することができなかった人たちが、今回のミサでは「外国語の説教が翻訳同時通訳され招かれていると感じた」、見えない人にも音声ガイドがあり「教皇入場、祭壇やミサの進行状況などがリアルタイムに知らされて見えているようだ」と表現され喜びに溢れていました。

正に教皇様の仰る「誰一人排除しない教会」が実行されたミサであったと思います。38年前からみると社会の障害者への理解や制度、環境など随分変わってきたように思われますが、からまうかいとなってしょうか。今回、行われたようなミサが全教区、全小教区で進んでいくことを願っています。

最後になりましたが、障害者の受け入れにご尽力いただきました司教団、司祭の皆さん、 こうこくだいりてんでんつう 広告代理店電通ライブの皆さん、全てのボランティアの皆さん、共に祈っていただきました信徒 の皆さん、本当に本当にありがとうございました。

次回、カ障連全国大会2021長崎大会への参加をお願いします。

神に感謝。





H

不可欠となる。

2019年11月18日

員に等しく行き渡るこ ぞれの立場から要望事

その結果、2度目の下

項を確認・提出した。

いのちと安全

の通訳が必要となる。 ては、要約筆記や手話 と。聴覚障害者にとっ

またそれらの情報を映

し出す情報用スクリー

と。一方、視覚障害者 がるためのエレベータ 場合は、盲導犬のため

る人たちの座席から見 車いすエリア (2階)

ことが可能となった。 れ、グラウンドにも車

また盲導犬利用者の

える位置に置かれるこ だけだった。そこに上

ンが、それを必要とす の1階スタンド最上段 いす用エリアを設ける

の座席は、東京ドーム

当初、車いす利用者

ら)な動線が確保さ

ラット(起伏のない平 見(9月27日)では入口

からグラウンドまでフ

ク

# 近づく「教皇訪日ミサ」 障害者参加できる環境に

いやしと和解、ゆるしの道を

つねに差し出す「野戦病院」に

場の進捗状況を聞いた。 江戸徹さんと、事務局の村上かづさんを訪ねて、東京のミサ会 サへの完全参加と平等」を目指して尽力している力障連会長の に参加しやすい状況がほぼ整いつつある。全ての障害者の「ミ り組んできたが、このほど約1年の努力が実り、障害者がミサ 25日の「教皇訪日ミサ」(東京)の会場について環境整備に取 日本カトリック障害者連絡協議会(以下・カ障連)は、11月

## 力障連の要望 ほぼ整う

カ

め、ミサ用の『聖堂』 ミサに参加できる環境 のさまざまな状況を想 く上で細やかな配慮がっかけとなり、力障連 に、つくり変えていい 設計になっているた 司教団にミサ会場の環 は、主に野球観戦用の の一つ、東京ドーム が司式するミサの会場 シスコが日本訪問への る。教皇フランシスコ を整備する必要があ 定して、全ての人々が ずミサ典礼に関する (排除ゼロ)をうたっ | の事前配布に加え、ミ | 車いすが1台しか入ら | なった。その他、多目 | 「情報」が、参加者全 ドームを視察し、それ 重要点の一つは、ま 手話通訳者⑤要約筆記重要点の一つは、ま 手話通訳者⑤要約筆記 平等に情報を共有 サの進行に合わせて情 ない。乗降には2分か 的トイレも増設される お手伝いすることがで 準備を始め、今年2月、 | 報を得ることができる| かる。しかし、車いす 通訳者の代表者が東京 者と打ち合わせし、提 を提出した。それがき する場面を思い出し、 希望を表明した時から 昨年9月、 教皇フラン 等が必須になる。 同時通訳・音声ガイド 利用者は、力障連だけ ①視覚障害者②車いす 境整備に関する要望書 乗ってマウンドに登場 として8月と9月に、 そのため、力障連は、 定された座席に行くた 案 (9月18日)した。 リック中央協議会担当 下見の後、改めてカト 用の出入口があるはず 野球中継で選手が車に 上かかってしまう。 めには、エレベーター だ」と考え、1度目の でも100人以上。指 「グラウンドに必ず車 そこで、江戸さんは

「誰一人排除しない」」にとっては、点字資料 ーは1基だけ。しかも を設けることが可能と の乗降だけで3時間以一ク司教協議会担当司教 サ説教が外国語で行わ である大塚喜直司教 れるため、同時通訳を じ配慮を」と通達した にも「東京ドームと同 は、長崎の準備担当者
聞きながら手話通訳を いるが、日本カトリッ現させる。今回は、ミ 日ミサ」が予定されて 取れるようなミサを実 県営野球場で「教皇訪 きて良かった」と感じ 予定だ。 ス」と「充電スペース」」あることを知っていた 渉し、「盲導犬用スペー| になってくる。これら には電源の確保も重要 器、電動車いすのため 呼吸器利用者の医療機 約筆記のパソコンや、 についても力障連は交 | 11月24日には、長崎 戸さんはこう話す。 専門団体(力障連)が

題は残っているが、 するのかなど、まだ課 きます」と話している。 ベントがあるときに、 だければ、こうしたイ 「この世に生まれて 会にもなっている。

の環境整備に精通した 進んできたと言える。 度目の教皇訪日を迎え の完全参加」も徐々に 者にとっての「ミサヘ 教皇訪日がきっかけと 積み重ねにより、障害 るが、力障連の努力の た。それから38年、2 なり、その翌年誕生し 聖ヨハネ・パウロ2世 村上さんは「障害者 力障連は、1981 (国際障害者年)の ています」 犬の利用者、車いす利 ります。問題は、その 皿』 はほぼ整いつつあ ていただければと願っ について事前学習をし 担当者が、会場の環境 いけるかどうかです。 用者など、それぞれに 知していること。盲連 内係や誘導担当者が執 適切な情報を提供して 一受け皿 について塞 「ミサ会場の、受け

必要となる。さらに要 の水飲み場やトイレが

今後につなげていく機 まな問題を再認識し、 体で考えるべきさまざ 教皇訪日は、教会全

新 聞 CATHOLIC WEEKLY

2019年12月8日

最終打ち合わせをする村上さん©と江戸さん

### 沸

という呼び声が飛び交 ら「パパ(教皇)様~」 り、会場のあちこちか るほどの大歓声がおこ

気づき、相手の目に視 と、すぐにその存在に 線を合わせ、その方向 者、障害者を見つける を指差しながら移動す 教皇は子どもや病 訪日をきっかけに誕生

ミサは11月25日午後3 司式する東京ドーム という異名を納得させ と、「ロックスター」 専用車)で登場する がパパモービレ(教皇 参列した会場に、教皇 始まった。約5万人が 時30分、教皇による (東京都文京区)での いのちへの祝福」で 教皇フランシスコが る。そして赤ちゃんを て祝福する。その度に てもらった手で、皆と の姿や、教皇に握手し る。見知らぬ赤ちゃん 抱き上げて頬にキスし ち合う人々の姿もあっ 握手し "祝福" を分か を教皇の手元までリレ 会場に歓声が湧き起こ 一式で "届ける" 人々

ドが流れた。

CICの担当者は、

ます」という音声ガイ

THE

一緒に 参加したい」

の練習を重ねたとい

とを見ながら一実沢 「福者ユスト高山右近

列福式ミサ」の映像な

ネ・パウロ2世教皇の まな取り組みがあっ では教皇の思いを実現 た。38年前の聖ヨハ させるような、さまざ と進められたが、会場 その後、ミサは粛々 んが、今回初めて、ミ理由が全く分かりませ が沈黙になってもその 長)はこう話す。 島・グローリア会会 た清水文雄さん(福 音声ガイドを利用し 一視覚障害者は会場

のための「音声ガイ の半数が外国籍。その 月17日付紹介)。関係 境整備に尽力した(11 る」という悲願を実現 がミサに完全に参加す 徹会長)は、「障害者 ラ (司教冠)を外しま 害者連絡協議会(江戸 した日本カトリック障 サに音声ガイドが付 を上げ、両手を上げて 場の場面では、「教皇 するものだが、教皇登 ア。ミサの実況中継を 元ベトナム難民の高山 インフォメーションセ でささげられた。共同 るCIC (コルウヌム ス点字図書館と、音声 ベトナム語、韓国・朝 ド」も導入した。 試みとして視覚障害者 点字資料を配備。初の 手話通訳、要約筆記、 する情報が少ない中で 活動団体は、ミサに関 させるため、会場の環 で、拿を上げ、拿 が赤いじゅうたんの上 ンター)のボランティ祈願を担当したのは、 訳サービスを行ってい 担当したのは、ロゴに、共同祈願や聖歌は、 動してしまいました。 した』など、ミサの内 ガログ語など、多言語 ん ているようで本当に感 かく説明してくれまし 容や会場の様子を事細 仕には、カトリック学 さんら6人。聖歌の奉 図書館館長の西田友和 貴さんや、ロゴス点字 鮮語、スペイン語、 えることはありませ あの時の感動が今も消 たので、まるで目で見 状況を反映させるよう 日本の教会は、信徒 『今、教皇がミト タ

人々に祝福を与えてい 校や修道会、外国人共 同体が当たった。

3

きれない難しさがあ

された視覚障害者のための「音声ガイド」だ。「視覚障害者とミサで一致した がら、教会の課題を浮き彫りにしていく。第1回は、日本のミサで初めて導入 ようにと奮闘した人々がいる。今回から数回にわたりその取り組みを紹介しな ヌムインフォメーションセンター)の有志が「音声ガイド」に初挑戦した。 い」という強い思いで、ロゴス点字図書館(以下・ロゴス)とCIC(コルウ 東京(11月25日)でミサをささげたが、ミサ会場では「誰一人排除されない」 感動を呼び起こした教皇フランシスコの訪日。 教皇は、長崎(11月24日) と

平井利依子さ

登はロゴスの

だ。ミサの外

んの受け持ち

## ① ミサの「音声ガイド」に初挑戦 ロゴス点字図書館とです C۱

前準備だけでは対応し られる上に、その内容 継することだ。 か、司式者の動作や会 じミサは無いため、事 や対応言語など全く同 望を集約し、東京ドー 会長)は、当事者の要 者連絡協議会(江戸徹 場の様子などを実況中 衆の所作、またミサ会 日本語で朗読するほ 語が使用される部分を の役割は、ミサで外国 ムでの教皇ミサで初の した。「音声ガイド」 一音声ガイド」を導入 ミサの「音声ガイド 日本カトリック障害 典礼の知識が求め

TEAMIZ 教会を ONE

は、

教皇ミサを支えた人たち

ることもできなかっ は対処できず、またミ る。そのため会場整備 サに関する情報が少な い中で専門家に依頼す に当たった広告代理店 しかし、ロゴスとC ている。考える図書館。 作・貸し出し等を行っ 字図書や録音図書の製 ボランティアグループ 訳サービスに尽力する リック出版物等の音声 また、CICは、カト 書の蔵書をそろえ、点 作などの視覚情報がな も、司祭の象徴的な動 で音声情報はもらえて いため、典礼を十分に 視覚障害者は、ミサ

は技術ではなく、 「一番必要だったの 理解することができな

ゴスは、宗教書や哲学

ICは引き受けた。ロ

ミサで一致したい

訳ボランティア30年の 田中総子さんは、音声 知恵美さん。CICの にミサに参加したいと した」とロゴスの青野 いう気持ちとやる気で とこんな思いをさせて と気付きましたと話す。 きてしまっていたのだ も、「視覚障害者にずっ もロゴスの青野さん 教皇訪日まで1カ月

た。引き受けた理由を 実況中継は初めてだっ 経験があるが、ミサの 式次第も、事前情報も まった。しかし、ミサ 足らずの中で準備が始 ほとんど無いという状

い!と即答しました」 しょう。させてくださ ガイド』を実現させま ませんでした。『音語 聞いたら、『音声ガイ 害者だけ一致できない 致したくても、 視覚障 のか分からないので ド』を断る理由があり サでも何が起きている 館長がこうおっしゃっ んです』。この言葉を す。ミサで皆さんと一 **寛障害者は、日頃のミ** たのです。『僕たち視 「ロゴスの西田友和 ることになったが、い まず、 や祭具の名前が分から も、見慣れている祭服 声ガイド」の準備をす な作業から始めた。 名称を確認する基本的 サの流れと、祭具等の ティングを重ねて、ミ なくて」と田中さん。 という表現も思いつか ざ実況しようと思って 態。その状況下で「音 っさに。半球形の帽子 帽子の名前は何? と ない。「司教がかぶる 何時間ものミー 眠れなかったという田 迎えた。3日間、よく

「私を神の道具に」

が担当。音声機材の調は、ロゴスの青野さん ド」の役割分担を決め そして「音声ガイ 覚障害者の皆さんにと

朗読に加え、 に、教皇が読 伝える。最後 会衆の所作を が共同祈願文 川恵子さんと 祭壇の様子、 の日本語訳の 松橋豊子さん 田中さんが行 会場の実況中 極はCICの **層語の式文や** い、同会の日

が引き受け (イエズス会) 隆一朗神父 む式文は、英

実況中継の練習を行 ト高山右近列福式ミ や、日本の「福者ユス は、YouTube で は、東京・麹町教会で サ」の動画を見ながら い、教皇ミサ前日に 海外の教皇ミサの様子 田中さん はこう第一声を発し 声ガイドで、田中さん っての『月』になりま ください』と祈りまし すように。私を神様の 。道具 としてお使い ミサ開始15分前、音

意したが、ハウリング

じたため、4人で肩を (高周波の雑音)が生 った。マイクは4本用 スタンド席の前列に座

最終チェックを行っ 皇ミサ」の中継を見て の3人が「長崎での教 ユーイングで、CIC 行われたパブリックビ こうしてミサ当日を で、教皇様とか、法王 た。 様とか、パパ様とか、 いろいろ言い間違うか もしれません」 すると、それに反応 「緊張しているの

ミサの様子が

目に浮かぶ

底から『私の声が、視 中さんはこう振り返 なくなりました。心の 「2日前から声が出 がいる」と感じ、覚悟 聞こえてきた。その瞬 を決めた。 「音声ガイド」チー 田中さんは「仲間

ムは、祭壇の真正面の

て田中さんが目で見た

サを味わうことができ サだった。より深くミ

に伝える。それに従っ 指で示して、田中さん んは実況すべきことを ら楽しそうな笑い声が

大歓声が東京ドーム内 ンシスコが登場した。 が揺れる中、教皇フラ 手、訪日テーマの小旗

にこだました。青野さ

して視覚障害者の席か

いた。

割れんばかりの拍

で、皆さんに手を振っ

ておられます」

ています。大きな笑顔

らかった。今日は安心

してミサに参加できま 説してあげられず、つ

ほにキスをして祝福し

どもを抱き上げて、ほ

さにチームプレイの実

た」という感想が上が

った。また、彼らを誘

た」、「感動して泣い

導する介助者たちも

いつもミサの時に解

情報を言葉にする。ま

が「あれは、 ア像については、

ームは皆、西田館長の る。「音声ガイド」チ と会衆に所作を伝え ド」から流れる声に 続けた。「音声ガイ い一心で、2時間にわ という念願をかなえた さんや松橋さんは、 訳を読み上げる。戸川 たって音情報を提供し 「ミサで一致したい」 「立ちましょう」など

1本のピンマイクを回

しての実況中継に挑ん

で合図を送りながら、 寄せ合って、互いに目

うだった。感動が今も 生懸命さがにじみ出て 用した信徒からは、 ムの情熱や温かさ、一 「まるで目に見えるよ 「音声ガイド」を利 一丸となったチー の心で味わうための はないか。ミサを一つ あれば回避できたので の説明(情報提供) 決めること、そのため 体拝領ができる方法を 聞いた上で、確実に聖 をあきらめて帰る人も に帰る人や、聖体拝領 められていた。しか の観衆は全員、ミサ終 害者の中には気付かず 遅かったため、視覚障 体拝領をすることが決 了後に会場の出口で聖 体拝領だ。 スタンド席 いた。当事者に要望を し、そのアナウンスが 残念だったのは、

て着物を着ています」 ト。その通りに田中さ と情報提供し、サポー さんの作品。聖母子の さんの耳元で、英神父 立像。日本人の顔をし んが「音声ガイド」で 祭壇に置かれたマリ 舟越保武 さんはこう話す。 かしていくのか。青野 だ。この経験を、今後 のミサにどのように生 した」と喜びを表現し 田中さんも感動の涙

だ。英神父が、教皇の 司式文や説教の日本語 った。英神父の出番 いよいよミサが始ま 何が必要なのかを考え す た。そのためにミサで 題も見えたと思いま に、日頃のミサでの課 工夫できることと同時 て視覚障害者にとって するために、あらため る良い機会になりまし 「一緒にミサに参加

説明する。

教会を

(縦三つ×横二つ)の

ドームのミサ式次第を点字に翻訳(以下・点訳)したロゴス点字図書館(西田友和館長 る。その取り組みを紹介しながら、教会の課題を浮き彫りにしていく。第2回は、東京 日)でミサをささげたが、ミサで「誰一人排除されない」ようにと奮闘した人々がい感動を呼び起こした教皇フランシスコの訪日。教皇は、長崎(11月24日)と東京(25 (以下・ロゴス) の木川友江さんと糸川さやかさんの奮闘ぶりを取り上げる。

# |教皇ミサ||式次第を点字に翻 訳

# ロゴス点字図書館

教皇ミサを支えた人たち れは全く違う。点字本 備と工夫が求められ 冊の本を作るほどの準 の作成には、新たに1 うと考えがちだが、こ 下・墨字)を点字に置 く点訳は、私たちが使 がら読んでいく。とか 性質が影響しているか る。それは点字特有の き換えればよいのだろ い慣れている活字(以 ることができます。で の色やフォントで見せ さんはこう説明する。 夫をして、読者にとっ 見出しの。書き出し。の も点字はそれができな し(節)の区別を、文字 位置を変えるなどのT いため、大見出しと小 大見出し(章)や小見出 「例えば、墨字では

ONE

第の内容を理解しやす 列をどんなレイアウト さんが取り掛かったの は、点字版の文字の配 い目次をいかに作って にするか。そして式次 まず木川さんと糸川 レイアウトと目次 め渡すことは難しい。 め、短時間で全体を眺 くという特徴があるた 字は一字ずつ読んでい 合、目次は不可欠。点 かった。点字本の場 第には目次は付いてな トにしているのです」 て読みやすいレイアウ また今回のミサ式次

左から木川友江さん、

カ

さんと糸川さんの地道

間は2週間ほど。木川 週間前だった。作成期

な作業が始まった。

点字は、六つの点

いくかである。

しかし目次があれば

のは、ミサ開催日の3

ページ。ミサに関する の式次第は、B5判62

点字版「教皇ミサ」

情報がロゴスに届いた

ように文字の大きさや えたり、文字に色を付 フォント(書体)を変 けたりすることができ これについて、木川 点字は、「墨字」の できる。そのために 場所にすぐ飛ぶことが 視覚障害者は読みたい 式次第の全体の流れと あった。そして、読者 は、まず木川さんらが 次を作る。 が使いやすいような目 内容を理解する必要が

TEAMIZ

点を左から右に触りな だ。視覚障害者は、凸

ない。

を示す「表音文字」 字、アルファベット等 組み合わせで50音や数

### 「読み方」が重要

特徴は、「読み方」を さらに点字の最大の 正に使う「読み合わせ

えたが、教皇が持って いる「杖」の正式名称が な説明を入れようと考 あった。点字版に、そ らなくても、使用する 明確にしなければなら の写真についての簡単 み方」が必要になる。 かし、点字は必ず「読 漢字で大体の意味をつ ないことだ。漢字の場 を持った教皇の写真が かむことができる。し 合は、「読み方」が分か ミサ式次第には、杖

問い合わせた。そし 川さんは、カトリック 中央協議会(以下・中 分からない。そこで糸 あることが分かった。 クルス)」という名称で 央協)の典礼委員会に て、それが「司教杖(バ 糸川さんは早速、校

こんな感じになってい スあけて点字で書いて 二人が一番困ったの グ語の聖歌の出だしは いる。しかし、タガロ いくことを基本にして 度の意味の区切り」 訳。点字は、「最小限 た。「クニンアッタン (文節) ごとに、1マ 今回の点字版作成で 外国語の聖歌の点 ぶ声が聞こえた。

1518

糸川さやかさん

### 教会に点字本を

ガピンアンガライナイ

しかし、糸川さん 「このように点字 訪日が残した。宿題に うに、教会に点字版が という気持ちになる。 もし訪れた教会に点字 る」という教会がある。 て信仰生活が送れるよ わない」に関係なく、 いう意識を日頃から育 あって、当たり前と 誰でも自由に教会に来 てていくことも、教皇 版があれば、当事者は 受け入れてもらえた 点字版を「使う・使



左から凸点を触り読む

イアウトも変わる。ベ トナム語や韓国・朝鮮

かった。その区切る位 よいのか全く分からな ったいどこで区切って

置によって点字版のレ

う。点字を利用する視 ないでほしい」と言 なことなんだ』と思わ 版を作ることが『特別

語の聖歌も同様だっ

の必需品。一人一人が

「ミサへの完全参加を

字版は情報を得るため 覚障害者にとって、点

確な「読み方」で点訳 る時間が大幅に違って の下準備の完成度によ さんが素早く実行。こ こうした下準備を糸川 ができる。そのため、 い点訳資料を作ること すれば、より精度の高 らなくなるからだ。正 み方を調べなければな ければ、校正でまた読 用」の原稿に「読み方」 って、校正作業にかか を明記する。それがな こともあった。ロゴス せた。 れていなかったこと 説明」「来日テーマ」 ンボルマークとその 第の印刷間際にこんな 化推進部等に問い合わ に、中央協の社会福音 案件が浮上するたび 「表紙」や「典礼用シ た式次第の情報の中に が、事前にもらってい 「裏表紙」などが含ま た。こうした専門的な その他、点字版式次

哲学書の蔵書をそろ

ロゴスは、宗教書や

らである。

たり前のこと」だか 版を準備するのは、当 果たすためには、点字

意味で区切る

くるのだという。

を、他の職員が直前に

歌を皆と一緒に歌え 指で)歌詞を読みな と点字版「教皇ミサ\_ 用者からは「(自分の 式次第が完成した。利 て、楽しかった」と喜 がら、ベトナム語の聖 力の積み重ねで、やっ た。こうした二人の努 追加情報の点訳を始め なって偶然知ったの 糸川さんは、慌てて どの点字版を置いてい 者がいつ教会を訪れて もよいように聖歌集な

の一つだろう。

いてあったものの、

は、

外国語の読み方は書

会にもっと知ってほし

いと願っている。

国内には、「視覚障害

ている。木川さんらは げるミサ』等も制作し 典礼』や『ともにささ え、点字版の『聖書と

カトリックの点字版書

籍について、全国の教

3

(2)

# 目は、難聴や中途失聴、加齢などで「聞こえに不自由のある人」たちに、文字で情報を いる。その取り組みを紹介しながら、教会の課題を浮き彫りにしていく。シリーズ3回(25日)でミサをささげたが、ミサで「誰一人排除されない」ようにと奮闘した人々が たって音声情報を文字に訳して提供し続けた。 **届ける「要約筆記」(筆記通訳)。東京ドームのミサでは、要約筆記者6人が2時間にわ**

感動を呼び起こした教皇フランシスコの訪日。教皇は、長崎(昨年11月24日)と東京

# |文字||でミサの実況中継 サークル「イサク」と東京教区の要約筆記者

を行う。 映し出して、情報保障 置)をつなげて、パソ ジェクター(投影装 合は、パソコンとプロ て見せるものだ。 のある人」が文字で情 音や声が聞きづらいな 大型スクリーンや壁に コンで入力した文字を ソコン要約筆記」の場 報を得られるように、 音声情報を文字に訳し っている3人の計6 で要約筆記活動に携わ クル「イサク」 を担当したのは、 浜教区の福祉委員会と へ、そして<br />
②東京教区 **聴覚障害者の会が後援** パソコン要約筆記 している要約筆記サー 東京ドームミサの 「聞こえに不自由 「要約筆記」は、 の 3

教会を ONE TEAMC

護するために不可欠な 会に参加する権利を擁 保障するため、また社

全ての音を文字に 東京ドームでの教皇

教皇ミサを支えた人たち

ず、 人の世界』にも入れ 界にも、 利用する"ろう者の世 かりません。中途失聴 や難聴の方は、手話を います」 つらい思いをして 聞こえる ができる文章に適宜修 の式次第など事前準備 正を加えながらパソコ

スクリーンに情報を映

設置された要約筆記用

ク

る人はすぐに避難する 音が鳴り響く。聞こえ また会議などで、情報 という可能性が高い。 えない人は危険な場所 ことができるが、聞こ に取り残されてしまう 避難を告げるサイレン 災害時の場合、緊急

力

状況をこう説明する。 自由のある人」たちの 子さん(千葉・茂原教

会)は、「聞こえに不 を立ち上げた田中溜美

サークル「イサク」

WEEKLY

の85%の人は手話が分

が音声だけで発信され

は、

全体を眺めて必要

(全聴覚障害者)全体

手話ができるものと誤

「聞こえない人は、

解されがちですが、

った。 地の確認を行い、当日 ムに分かれて役割を担 開始。2人ずつ3チー も午前9時から準備を 第1チームは、ミサ

. は, たたいて文字にする その場でキーボードを ど、現場で得た情報を 「生入力」の担当。 ンで表出する「前ロー かった教皇の説教な ル」 担当。 第2チーム そして第3チー 事前に公開されな

る場合には、聞こえな も参加することができ る人」に情報を平等に い人は会議にも決議に 一聞こえに不自由のあ 「要約筆記」は、

ない

の呼吸で相互に助け合 の作業状況を見ること より6人が同時に互い 別の1台の表示用パソ ン。この6台をハブ のは、6台のパソコ い、スタンド席の前に ができ、「あ・うん」 ワークを築く。これに コンにつないでネット (集線装置) を使って 3チームが使用する

筆記者は、前日から現 じめとする6人の要約 ミサで、田中さんをは

の表示機を設置した。 ッシャーの中で、教皇 だ。6人全員が、吐き 見ることができないと 自由のある人」からは このスクリーンがアリ 気を感じるほどのプレ ょ、アリーナ席に小型 し出すのだ。しかし、 いう窮状を知り、急き -ナ席の「聞こえに不 いよいよ本番開始

な情報を文字化する と文字にして臨場感を 伝える役割だ。機材の 際、会衆の喜びの声を 「(大歓声)」 「(拍手)」 「サポート」役。例え 教皇が登場した

不具合など不測の事態 にも備える。

瞬だけだった。 の姿を見たのはこの一 する教皇。6人が教皇 (教皇専用車) 会場をパパモービレ

文字で伝える」こと。 が表出する限りそれを 歓声なども含め、 信念は、音楽や人々の で"文字による実況中 継』を開始した。皆の 壇が見えない。<br />
裏方席。 6人はすぐさま、祭 前ロール 担当の 音

けて打ち、その後に最 スの最初の長い」と続 福音は」と入力する チームは、教皇の説教 す。「生入力」の第2 用意していた「キリス まさに秒単位の連携プ 節です」と入力する。 初の一人が「説教の一 と、もう一人が「イエ トに賛美」の文字を流 読の箇所を流した後、 第1チームは、 レーで一つの文章を完 一人が「今聞いた 福音朗

で一周 成させるのだ。 ーサポ

教皇ミサの体験で、

させて、2時間にわた るミサの"実況中継" は、聖歌が流れると とができた。 を文字で伝え果たすこ うして6人の力を結集 サの状況を伝える。こ 「♪」などの記号でミ ート」役の第3チーム

## 小教区で始める

うん』の呼吸でした。 後悔』は残っているとかったのにと「小さな とができればもっと良 合うことのできる席 害者が教皇と直接触れ 本音を言えば、聴覚障 さを感じ、ミサの最中 Mで奉仕できる有り難 まさにONE TEA 口なので、本当に『あ・ で、情報保障をするこ さんは語る。しかし、 に何度か目がうるんで しまいました」と田中 「皆、要約筆記のプ



要約筆記で奉仕する6人のプロたち

は、小教区での小さな

(障壁の無い環境)

実践から始まるのだろ

う話す。 ついて、田中さんはこ 笑い終わった後に、 再確認した "宿題" に

ないために寂しい思い 情報が遅れると、皆がす。でも、要約筆記の ずです」 をしている人はいるは の大会などで、 もミサや勉強会、 けていきたい。教会で がない状態で情報を届 だから少しでも時間差 は皆が笑っている時に ある人』たちは、本当 になってしまいます。 になり、寂しい気持ち 一緒に笑いたいんで 人でクスッと笑うこと 「『聞こえに不自由の 聞こえ 教区

りません。ニーズ(需 ない教会」。手話にし 受け皿が整っている教 やって来ても、迎える ても、外国語にしても 会づくりだ。 ではなく、誰かが突然 要)がないからです」 一うちの教会は必要あ 田中さんが望むの 「誰一人排除され

るための小さな筆談ボ ら、どこの教会でも始 ずは聖堂の入口など 堂の壁に文字を映し出 すことができるが、 記」の場合は、プロジ められる。バリアフリ ェクターがあれば、 ード等を置くことな 「パソコン要約筆 文字で情報伝達す ま 聖



日本カトリック障害者連絡協議会 会長 江戸 徹 殿

貴社は『すべてのいのちを守るため』をテーマ にした教皇フランシスコ日本司牧訪問の運営に あたり大いに貢献なさいました

よってここに記念品を添えて深い感謝を表するとともに主の祝福が皆様の上に豊かに注がれませた。ながり申したばませ



### 2019年12月20日

### フランシスコ教皇様 来日ミサ参加のお礼

しきょうぎょうぎかい かいちょう たかみ みつあき だいしきょうさま 司教協議会 会長 高見 三明 大司教様 ちゅうおうきょうぎかい じむきょくたんとうしきょう おおつか よしなお しきょうさま 中央協議会 事務局担当司教 大塚 喜直 司教様

しょうがいしゃれんらくきょうぎかい かいちょう え ど とおる 日本カトリック障害者連絡協議会 会長 江戸 徹

### † 主の平和

このたびは11月25日のフランシスコ教皇様来日記念ミサ・東京ドームにおきましては、 しょうがいしゃ 障害者のミサへの参加に対し大変なご配慮をいただき本当にありがとうございました。

私どもは教皇様来日のニュースを知り、2月1日には「障害者のためのミサ」開催の要望書を司教団に提出させていただきましたところ、8月28日に担当業者の電通ライブ様との下見のご連絡をいただき、準備の段階からご一緒させていただけることに大変喜び、当日は車いすりようしゃ ちょうかくしょうがい しかくしょうがい しゅわっうやくしゃ まうやくひっきしゃ ちょうれんじむきょく だいひょうしゃ さんか 使用者、聴覚障害、視覚障害、手話通訳者、要約筆記者、力障連事務局の代表者で下見に参加をさせていただきました。そしてその結果を9月3日付け文書にて「障害者のミサへの完全参加」の要望書を提出させていただきました。

きない状態の車いすの人々も、健常者と同じように周囲に移動ができ、久しぶりの再会を喜ぶ場面もありました。また今回初めて実施をいたしました「音声ガイド」につきましては、終了後すぐに視覚障害の方から「まるで目で見ているようで、自分も一緒に居ると感じた」という連絡に、準備の努力が一つ実ったと実感致しました。

お礼のご挨拶が大変遅くなりましたが、今回のご配慮に心よりお礼申し上げます。 こと 今年もあと10日程となりました。良いご降誕祭を、よい新年をお迎え下さいませ。まずはお礼まで。

感謝と祈りの内に

(連絡先) 466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15 なごやきょうく 名古屋教区カリタス福祉委員会内 にほん 日本カトリック障害者連絡協議会 電話 052-852-1426 FAX 052-852-1422

### 2020年2月25日

### フランシスコ教皇様 来日記念ミサに参加して

にほん 日本カトリック障害者連絡協議会からの報告書

にきょうきょうぎがい おい ちょう たかみ みつあき だいしきょうさま 高見 三明 大司教様 ちゅうおうきょうぎかいじむきょく たんとうしきょう けっと 協議会事務局 担当司教 大塚 喜直 司教様

しょうがいしゃれんらくきょうぎかい かい ちょう えど とおら 日本カトリック障害者連絡協議会 会 長 江戸 循

### † 主の空和

この度は、教皇様来日記念ミサに際し、私ども日本カトリック障害者連絡協議会(以下略:カ は、教皇様来日記念ミサに際し、私ども日本カトリック障害者連絡協議会(以下略:カ はいりょ まこと 障連)からの要望をご配慮いただき誠にありがとうございました。厚く感謝申し上げます。

特に東京ドーム会場におきましては、事前の下見と意見をお聞きくださり、準備に当たっては ちゅうおうきょうぎかいでんつう 中央協議会、電通ライブの皆様方に限られた時間、限られた設備の中で真摯にご対応いただきま した。おかげさまで参加した多くの皆さんから感謝のことばと喜びの声を聞くことが出来ました。 こころ かんしゃもう あ

今までこのような大きな行事、ミサに際しては障害者の対応に色々と疑問の声が上がっておりましたが、今回は多くのことにご配慮頂き誠にありがとうございました。

なおこれを機会に参加された皆さんからアンケートを取らせて頂きましたところ、多くの しょうがいとうじしゃ 障害当事者から色々な声が寄せられました。そのため集計に時間がかかりご報告が遅くなりました事をお詫び申し上げます。

う後の教会行事、ミサ等に際しては、今回の報告書からバリアフリー対応の参考にして頂ければ、障害者だけでなく高齢者にとっても「参加して良かった」と言って頂けるのではないかと思いますので宜しくお願い申し上げます。

なおアンケートの内容は、ほぼ原文のままを掲載させていただきましたので、気になる点もあるかと思いますが、ぜひ暖かい心でお読みいただきご対応頂ければ幸いと存じます。以上、よろしくお取り扱い願います。

日本カトリック障害者連絡協議会 会長 江戸 徹 なごやししょうかくえほうちょう 〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15 電話 052-852-1426 FAX 052-852-1422

### てんぶしりょう こんかい しめんじょうないよう しょうりゃく いただ もくじ けいさい 添付資料 (今回は紙面上内容を省略させて頂き目次のみ掲載)

しりょう しょうれんとうさんかにんずうひょう 資料 Ⅱ 力障連等参加人数表

でいょう 資料 Ⅲ アンケート・参加者からの声

- <sup>もうしこみ</sup> 1 申込までについて
- 2 当日の状況
  - (1) <sup>なま</sup> 車いすエリアからの声
  - (2) 視覚障害者エリアからの声
  - (3) 聴覚障害者エリアからの声 アリーナ席から スタンド席から
  - (4) その他障害 (知的、精神、内部他) エリアからの声
  - (5) ボランティア対応について
- 3 今後の要望事項
- 4 その他気づいたこと

IV バリアフリースタッフからの声 てんじとしょかん ほうこく 1 ロゴス点字図書館からの報告

- しゅゎっうゃくしゃ 手話通訳者からの報告
- 要約筆記者からの報告

11 / 24開催

しりょう ながさきかいじょうさんかしゃ こえ 資料 V 長崎会場参加者からの声

- (1) 申込までについて
- (2) 当日の状況
  - 1 車いす対応
  - ②聴覚障害者対応
  - ③その他障害者、ボランティア対応
- (3) 今後の要望事項

VI カ障連からのまとめと提言

いじょう以上

### 

たい かんどう よろこ たいけん おも 大きな期待と感動と喜びを体験されたからだと思います。

また逆に考えると、今まで色々なミサや教会行事が行われてきましたが、障害者の立場から ままた。 意見を言えるチャンスが無かったからではないかとも感じました。その結果、障害者対応への <sup>たいさく まく</sup> 対策が遅れていたのではと思います。

しきょうだん 司教団といたしまして、ぜひとも今回の意見を検討して頂き、今後のミサ、行事へのバリアフ リー対応等にご配慮をいただきますよう切にお願い申しあげ、まとめと提言をさせて頂きます。 ヒラセュラ 東京ドームでのアンケート内容から感じられること。

心配なくできた。仮設トイレも準備していただき案内も親切で良かったと感謝の声が多く、私たちも良かったと思っています。

②視覚障害者にとって今回初めての準備された音声ガイドに感動されたと喜んでおります。従来の資料の音訳と点訳だけではなく、音声ガイドにより、会場の臨場感が見えるかのごとく感じたと感動されていました。今後もぜひ音訳ガイドの活用をお願いしたいと思います。

なお、今回スタンド席でしたが、高齢の視覚障害の方には階段で移動することが大変だった ようす。しかくしょうがいかたできます。これできる場所を検討して頂く必要があると感じました。

- ③聴覚障害者の席がスタンドとアリーナ席に分かれたため、席により情報保障が大きくかわりました。スタンド席は要約筆記と手話通訳スクリーンが準備されましたが、アリーナ席は手話通訳だけとなりました。またメインのスクリーンも手話通訳者の後ろのオペ卓により、ではまたできた。またメインのスクリーンも手話通訳者の後ろのオペ卓により、ではまたできた。または前日の下見で判明。聴障者には手話通訳と要約筆記が必要である、という当方の要望が主催者へ正しく伝わらなかった結果と思います。
- ④事前打ち合わせで、メインのスクリーンに要約筆記を入れることは出来ないと言われましたが、メインスクリーンの横に要約筆記のスクリーンが設置されれば、どの席からも見ることが出来きます。今後のこうした設置にご理解をいただきたいと思います。
- ⑤手話通訳、要約筆記者へ教皇様の説教原稿がなかなか事前に手に入らず、事前準備に苦労されました。バチカンからの指示とのことですが、手話通訳士は倫理綱領等で守秘義務が課せられており、いただいた原稿が外に漏れることはありません。障害者に充分な情報保障するためには資料の事前配布が必要である、と提言して頂きたくお願い申し上げます。
- ⑥要約筆記者の席はアリーナの聴障者席と同じエリアであったため、オペ卓によりメインスクリーンの日本語も見えず、座る場所の向が悪く苦労されました。機材設置を優先された結果と思いますが、今後検討して頂く必要があると思いますので宜しくお願い致します。

まがさきがいじょう 長崎会場でのアンケート内容から感じられること。

<sup>ながきま</sup> 長崎ドームでの障害者への対応は、東京ドームと比べてかなり差があったように思います。

- ①会場内に障害者の席は確保されていましたが、開門すると一斉に入場して障害者にとっては 身動きが取れない状態とのことでした。
- ②障害者トイレも少なく障害者はトイレにも行けなかったようです。
- ③車いす席は確保されていましたが、固定された椅子が置いてあり着席に苦労したとの事。椅子の取り外しが不可ならば、他の場所を考慮いただけなかったのか、今後は検討いただきたいと思います。
- ④指定席ではなかったため早い者勝ちの席で手話通訳席、立ち位置も決められていなかった。 しゅわつうやくしゃ じぜん そうだん せつめい 手話通訳者との事前の相談、説明もなかったとのことでした。
- ⑥福音朗読時は助祭が手話をしながらの朗読でしたが、スクリーンには場面が全部映し出されない時もあり、慌てて手話通訳者が手話通訳をして補うという事がありました。すべて事前打ち合わせがなかった結果と思います。

- ⑦ミサ時はスクリーンに字幕は入りましたが字幕の映らない状態も続いたり、文字が白色なので 司祭服と重なると見にくい状態であった。
- ⑧力障連から要請をさせていただいた要約筆記は準備されていませんでした。聴覚障害者には手話のよくわからない人もいますし、手話だけでは十分な情報が伝わりにくい。現在は、しゅかつきゃくようゃくひっき へいよう 手話通訳と要約筆記と併用することで情報保障をおこなっております。要約筆記は聞こえにくい人(高齢者)、日本語のわかりにくい人々にも有効な方法と思います。今後はこの併用でのじょうほうほしょう はるほうにしょう はるほうにしょう はるほうにしょう はるほうにしょう はるほうにしょう はるほうにしょう にほんご へいよう にんご しょうほうほしょう はるほんご なんご はんご かとびと い人 (高齢者)、日本語のわかりにくい人々にも有効な方法と思います。今後はこの併用での じょうほうほしょう なが いしたいと思います。
- ⑨長崎会場についても、実行委員会の中にカ障連、障害当事者を加えて頂ければ良かった。今後のカトリック行事、ミサ等も同じように、準備段階から当事者の声を聞き準備をしてただくようにお願い申し上げます。

### ていげん 提言

こんかい きょうこうきま らいにちきねん とうきょう ながさき かいじょう おこな 今回の教皇様の来日記念ミサが東京と長崎の会場で行われましたが、その対応は大きな差を感じました。私どもは、先ず障害者が参加しやすい配慮、「完全参加と平等のミサ」を司教団にお なが もう あ 願い申し上げました。

東京ドームでは下見の段階からカ障連をメンバーに入れていただき、下見に参加したがくしょうがいべつとうじしゃ しゅわつうやくしゃ ようやくひっきしゃ 各障害別当事者、手話通訳者、要約筆記者そしてロゴス点字図書館の皆さんからの意向をまとめて要望書を提言させて頂き、東京ドームだけでなく長崎会場におきましても同じように対応してないとお願い致しました。

その結果、東京ドームでは大変細かくご配慮頂き、参加した多くの方から喜びと感謝のメッセージを頂きました。しかし残念ながら長崎会場におきましては力障連からの要望書がどのように反映されたのかは不明ですが、具体的には従来のありかたの延長で行われたように感じました。今後はぜひ、日本のどこで開催されるカトリック行事、ミサであっても、誰も排除されることのないバリアフリー対応の配慮がいただけますよう強くお願い致します。そのためには今回の電気によった。

にようがいしゃ、さんか 障害者が参加しやすい対応は、障害者だけでなく日本の多くの信徒が高齢化している現状に

あっては、高齢者にとっても喜んで参加いただける教会、ミサになると思います。何卒宜しくお願い申し上げます。



い じょう

### れんらくさきおよ にゅうかい もう こ さき 連絡先及びご入会の申し込み先

ょ きょく 事 務 局:〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15

名古屋教区カリタス福祉委員会室内

Tel: 052-852-1426 fax: 052-852-1422

ゅうびんきょくぶりかえこう ぎ はんこう 郵便局振替口座番号:00100-7-31254

(同封の振込用紙をご利用ください)

かい ひ ねんかん くち えん 会 書:年間1口 1.000円

だんたい くちいじょう こじん くちいじょう (団体 10口以上 個人 1口以上)

かにゅうしゃめい にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい 加入者名:日本カトリック障害者連絡協議会